

＜先週の説教から＞

『詩編 28 一罪を赦された者の幸い』

武田真治 牧師

詩編 32:1~11 ローマの手紙 4:1~12

ジョン・ウェスレーは、この詩編の6節と7節からインスピレーションを得て、あの有名な讃美歌『わが魂を愛するイエスよ』(＝讃美歌21の456番)を書いたと言われています。アウグスチヌスやルターもそうでした。何よりパウロがローマ書で“信仰義認”を説くための聖書箇所＝『主から罪があると見做されない人は、幸いである。』として用いています。ただ、このパウロが引用している箇所は1～2節で、むしろこの詩編全体から言えば、この詩編の結論として冒頭に置かれていると言った方が正しいでしょう。

この詩の発端は3節の「わたしは黙し続けて、絶え間ない呻きに骨まで朽ち果てました。御手は昼も夜もわたしの上に重く」です。この言葉で重要な点は「黙し続ける＝沈黙」とは何かという点です。実は前の協会訳聖書ではここは「わたしが自分の罪を言いあらわさなかった時は」でした。まさに神様に対する“沈黙”であったと。なぜなら「御手は昼も夜もわたしの上に重く」あったからだ。困った問題や悩み、病い等がずっと押し掛かっている状態があり、それを神様が自分に罰のように与えていると考えていたからでした。これは私たち信者にも覚えのある状態ではないでしょうか。ただ普通なら『助けてください』や『なぜなんですか?』と神様に叫び求め、祈るのではないのでしょうか? しかし、この人は「黙し続ける＝沈黙」していたと。なぜでしょう?

おそらく、自分は悪くない、正しく生きて来たのに、なぜこんな悩みや問題が降りかかるのか、神様が意地悪をしていると思っていたのではないかと。おそらくここでの「呻き」は頭の中で『どうしてうまくいかないのか』とか『どうすれば切り抜けられるだろうか』等、自分でなんとか切り抜けようとあれこれ思いめぐらしている「呻き」だったのでしょう。しかし、それが続いた結果「骨まで朽ち果て＝消耗して生きる力さえ失くした」状態になってしまったと。ただ、そこで

初めて「わたし罪をあなたに示し、言いました。『主にわたしの罪を告白しよう』と。この言葉は、まさに神様への沈黙を自ら破った瞬間だったのではないのでしょうか?

その結果、「苦難から守ってくださる方」であることを改めて知ったと。良き方向へと導かれて行ったのでした。「あなたはわたしの罪と過ちを赦して下さったのだと! 故に最後はあたかも神様からの教えのように「わたしはあなたを目覚めさせ、行くべき道を教えよう。あなたの上に目を注ぎ、勧めを与えよう」と告げられます。苦しく、辛い時も、主に叫び、祈り求め、自分の問題や罪に「目覚めさせて」もらいながら、主の導き・教えに従う者でありたい!

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 5月 10日 (水) 20:00
II. 5月 11日 (木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答

祈禱主題: 母の日礼拝を覚えて

担当者: (水) 三箇 (木) 松山

祈りに覚える人: 兼川さん 金刺さん

*ハンナの会 5月9日 (火) 10:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男 23 女 53 計 76

祈禱会 I. 男3 女2 計5 II. 男1 女8 計9

日曜学校 幼稚科 4 小中科 11 計 15

【次週主日礼拝】 5月 14日 (日)

聖書: マルコによる福音書 1:16~20

説教: 「合同礼拝 — イエスさまのおでしさん」

武田 真治 牧師

讃美歌: 57(1)、32(1と2)、507(1と2)、
194(1と2)、200(1~4)、24(1)

【次週当番表】

司式: 金刺長老 奏楽: 中村 礼拝: 齋藤長老

献金: 北島 木村 受付: 鈴木 森本

会堂準備: 飯島 岡本 金刺 中村

森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 茨木

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・壮年会 ・婦人会

・ダビデ会

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう! 主に癒され、整えられて」

2023年 5月 7日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL& FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>